

\*暑い日が続きますが、皆様おかわりありませんでしょうか？

/// I N D E X ///

- ・メルマガニュース…………… ISO14030(グリーンボンド)の動向
- ・編集後記…………… 大林監督とカーボンフットプリント

■ ニ ュ ー ス ■

○ISO14030(グリーンボンド)の動向

LCA の国際標準規格である ISO14040:2006 と ISO14044:2006 は、1993 年に設立された ISO/TC207 (第 207 技術委員会) の SC5(第 5 分科会)で発行されています。TC207 は「環境マネジメント」に関する国際標準規格を発行することになっていて、その下部の SC が様々な国際標準規格を発行しています。たとえば、SC1 は ISO14001:2015(環境マネジメントシステム; PDCA サイクルが良く知られています)を、SC3 は ISO14020:2000(環境ラベル)を SC5 は LCA 以外にも ISO14045:2012(環境効率)や ISO14046:2014(ウォーターフットプリント)などを発行しています。カーボンフットプリントは LCA を使って計算されますが、SC5 ではなく、温室効果ガスに関する国際標準規格を発行するために設立された SC7 で ISO14067:2018 として発行されました。

このように、TC207 は企業の環境に関する技術的な国際標準規格を長年発行して来ましたが、最近では SC4(環境パフォーマンス評価)で ISO14030(グリーンボンド)と ISO14100(グリーンファイナンス)が始まり、SC7(温室効果ガスマネジメント)で ISO14097(気候変動ファイナンス)が活動しています。また新たな TC322(サステナブルファイナンス)が設立されるなど、金融に関する国際標準規格を発行する活動が盛んになってきました。そんな中から、今回は SC4 で議論されている ISO14030(グリーンボンド)の動向を紹介します。

ISO14030(グリーンボンド)は、2017 年に米国の提案で始まりました。「プロジェクトの選定、資産、活動、及びプロセス管理、並びに環境影響に係る定義、基準、報告に対して、「グリーン」として債権を指定するための原理や要求事項、ガイダンスを提供する。」こととされています。簡単に言えば、金融機関が企業にお金を貸すときに注意することをまとめておく国際標準規格を作ろうという訳です。この規格は 4 つの国際標準規格に分割されることになり、ISO/DIS14030-1 (グリーンボンドの手順)、ISO/CD14030-2 (グリーンローンの手順)、ISO/DIS14030-3 (タクソノミー)、ISO/DIS14030-4 (検証) と 4 つの国際標準規格の発行が予定されています。

上述の、ISO/CD とか ISO/DIS と言うのは、国際標準規格の発行までの途中段階を示しています。国際標準規格の作成は、WG (ワーキンググループ) が作成する WD(ワーキングドラフト)から始まり、WG が所属する SC (分科会) の CD(コミテイドラフト)に格上げされ、各国の投票により DIS(Draft for International Standard ; 国際標準規格の原稿)になります。さらに DIS は各国投票を経て FDIS (ファイナルドラフト) となり、各国投票による最終確認が行われ IS(国際標準規格)として発行されます。

グリーンボンドの国際標準規格については、日本は ISO14030(グリーンボンド)を作ることに賛成しましたが、4 部作のうち、14030-2、14030-3、14030-4 には、欧州域内だけに限定されている活動が ISO に反映されているものとして、その内容には反対しています。特に、ISO14030-3(タクソノミー)は、最初の案では、EC(欧州委員会)の「サステナブルな金融に関する技術専門グループ(the Technical Expert Group on Sustainable Finance : 略称 TEG)」が、2019 年 6 月に出した『タクソノミー技術報告書』の中間報告書が強く反映され、自動車、鉄鋼などの主要産業について、それぞれの製品がグリーンであるとされる温室効果ガス排出量の基準が示されていました。現在の DIS では、これらの基準は、規格の本文ではなく情報として付属文書(Annex)に示されることになったので、必ずしもこれらの基準を遵守する必要はありませんが、まだ EC の規制が反映されていることには変わりありません。この主要な産業の温室効果ガス排出量に基準を示す考え方は、次回以降に解説する ISO/DIS14097(気候変動ファイナンス)にも共通しています。欧州の基準を、世界に押しつけるようなものだと言うことで日本は反対しています。

この ISO14030-3(タクソノミー)で注意しなければならないもう一つの点は、温室効果ガスの排出量の基準が示されているだけでなく、主要な産業の気候変動への「適応」、水、サーキュラーエ

コノミー、環境汚染、エコシステムのそれぞれに対する基準の考え方が示されていることです。EC の総合的規制とすれば当然ですが、ISO/TC323（サーキュラーエコノミー）で議論されている国際標準規格と重複することが心配されます。ちなみに、『タクソノミー技術報告書』は 2020 年 3 月には最終報告書(本編と ANNEX)が公表されています。

ISO14030 の 4 部作は、各国の投票を経て、順次発行されて行くことになります。発行されましたら、またこの LCAF 通信でお知らせします。

[このニュースは GPN（グリーン購入ネットワーク）の会員専用ページに寄稿した「法政策、基準等からみる環境 ー今、ISO の世界で議論されていることー」と一部重複していることをお断りしておきます]

## ■■ 編集後記 ■■

○暑いですね。外に出ると、じっとしていても汗がでます。この暑さに負けて、特集はお休みにしました。また、メルマガニュースも GPN（グリーン購入ネットワーク）の会員専用ページに寄稿した本文を書き換えただけで済ませました。暑さ故のこととご勘弁ください。

○ちょっと古い話になりますが、今年 4 月に大林宣彦監督が亡くなりました。ご冥福を申し上げます。大林監督とはカーボンフットプリント（CFP）のマーク（あの重さを量る秤が CO2 をはき出していると言われているマークです）を決める時にご一緒しました。たくさんの応募からカーボンフットプリントの試行事業で使うマークを選ぶ会議でした。フットプリントですので、英国で使われているマークのような足跡をモチーフにした応募作が多かったのですが、大林監督の「食べ物にも付けるマークですから、足跡は汚い感じがしていやですね」という意味の発言で今の秤のマークが決まりました。穏やかな話し方をされる人でしたね。いろいろなお宅の猫が紹介されるので NHK の E テレで毎朝 6 時 55 分からの番組「0655」を楽しみに見えています。その中で、今週は「尾道の渡し船」の歌が流れています。大林監督を思い出しています。。。

私の興味だけで記事を書いています。おもしろがってくれる人がいてくれるなら、とてもうれしいです。⇒感想をお送りください。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見、ご感想、本メールマガジンの解除のご連絡はこちらまで  
[contact@lcaf.or.jp](mailto:contact@lcaf.or.jp)

一般社団法人 日本 LCA 推進機構  
Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)  
(エルカフと呼んで(読んで)ください)  
〒71-0014 東京都豊島区池袋 2-36-1  
インフィニティ池袋 8F52  
電子メール: [contact@lcaf.or.jp](mailto:contact@lcaf.or.jp)  
[URL:https://lcaf.or.jp/](https://lcaf.or.jp/)